ふくしまオーガニック通信

～ 令和6年度　第1号 ～

令和6年7月9日

福島県農業総合センター有機農業推進室
福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地
TEL：024（958）1711　　FAX：024（958）1730
Email：yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp

『有機農業推進担当職員が新しくなりました』

【農業総合センター有機農業推進室】

令和６年度の新たな有機農業推進体制をお知らせします。

今後もより一層力を入れて、福島県の有機農業を推進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

所　　属	職　　名	氏　　名	担　　当
農業総合センター有機農業推進室	新　室　　長	田口　明広	総括
	新　主査（キャップ）	木幡　由美子	中通り普及（野菜）
	主任研究員	根本　和俊	試験研究
	新　技　　師	八代　祐弥	中通り普及（作物）
会津農林事務所農業振興普及部	主任主査	桑名　篤	会津普及
相双農林事務所双葉農業普及所	新　主査（キャップ）	木村　秀樹	浜通り普及
環境保全農業課	主任主査	中山　秀貴	有機農業担当
	新　副　主　査	大竹　智美	〃

『現地実証ほを県内に６か所設置しました』

【農業総合センター有機農業推進室】

各地域の実態を踏まえた有機農業推進を展開するため、県内６か所に地域の優良技術普及に向けた現地実証ほを以下のとおり設置しました。

市町村	品　目	内　容
郡山市	水稲	水稲有機栽培における屑大豆を利用した施肥の実証
郡山市	キャベツ	キャベツ有機栽培における緑肥利用による減肥効果
昭和村	水稲	中山間地域における水稲紙マルチ栽培の地域適応性の検証
会津若松市	イチゴ	イチゴの有機栽培における脂肪酸グリセリド乳剤を使用したアブラムシ類及びうどんこ病の防除法の検証
南相馬市	水稲	液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証
浪江町	アスパラガス	簡易ハウスを活用したアスパラガス有機栽培の半促成長期取り実証

＜現地実証ほ紹介＞

『水稲有機栽培における屑大豆を利用した施肥の実証』

【農業総合センター有機農業推進室】

有機農業においても近年の資材価格高騰などの影響に伴い、経営環境の厳しさが増しており、さらなる地域資源の有効活用が求められています。そこで、地域で生産された大豆の規格外品（屑大豆）の基肥活用の効果を確認する実証に取り組んでいます。

屑大豆を４月 17 日に施用し、耕起及び２回代かきを実施後、５月 21 日に田植えを行いました。また、６月１日には乗用型除草機による１回目の除草作業を実施しました。無肥料区と市販の有機肥料区との３区で、生育・収量を比較します。

ブロードキャスターによる屑大豆施用

田植え後の実証ほ

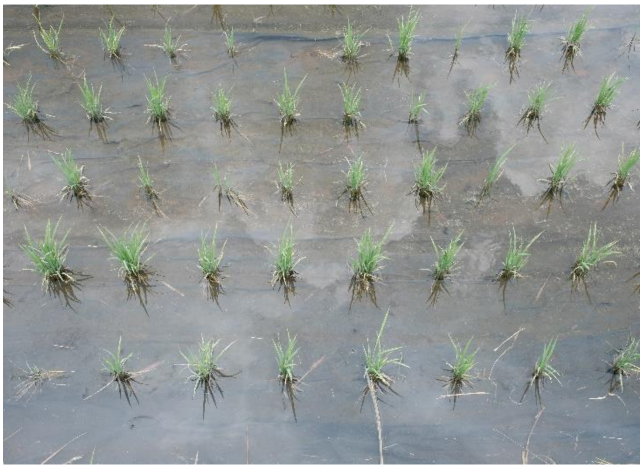
『中山間地域における水稲紙マルチ栽培の地域適応性の検証』

【会津農林事務所農業振興普及部】

会津地域の水稲有機栽培では、抑草効果の高い紙マルチ栽培が広く普及しています。紙マルチ栽培は、紙製のマルチングシートを田面に敷きながら苗を移植する技術で、光を遮ることで雑草の発芽・生育を抑制する効果が期待されます。このシート約 45 日で水田の微生物により分解されるため、回収の必要がありません。一方で、遮光により地温が上昇しにくいため、稲の初期生育が緩慢となる傾向があり、標高の高い中山間地域における適合性を検討する必要があります。

今年度は、標高 450m の地区において、紙マルチ栽培による稲の生育や品質を確認するとともに、近年の温暖化を見据えた中山間地域での実用性について検証します。

紙マルチ田植え機による移植作業（５月 20 日）



田植え後の実証ほ

『液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証』

【相双農林事務所双葉農業普及所】

令和５年度は夏季の高温の影響で全国的に玄米の品質が低下しました。特に、有機栽培ではほ場への窒素投入量が低い傾向にあるため、高温条件下における生育後半の栄養凋落は、玄米の品質低下を招きやすくなります。そこで、幼穂形成期以降に液肥による流し込み施肥を行い、高温条件下における玄米品質の維持向上について実証を行います。今回使用する液肥は、窒素成分の多くが魚エキス由来のアミノ酸窒素である「エキタン有機」で、水口から流し込み処理を行い、適切な施肥時期を検討します。

田植え後の実証ほ

液肥「エキタン有機」

＜試験研究の紹介＞

『両正条田植・直交除草を基本とした水稲有機栽培体系の確立』

【農業総合センター有機農業推進室】

農業総合センターでは、水稲有機栽培の機械除草における株間の残草処理対策に関し、農事組合法人「あいアグリ太田」（南相馬市）の協力のもと縦横２方向直交除草の実証に取り組んでいます。衛星測位システムを活用して、植え付け位置を精密に制御する両正条植え田植機による植付け（条間・株間ともに 30cm 間隔を保った格子状移植）と乗用型除草機の活用による縦横２方向直交除草を行い、除草効果を検証します。

田植え後の実証ほ（縦）

田植え後の実証ほ（横）

＜普及コラム＞

『新型アイガモロボの実証試験を行っています！』

【農業総合センター有機農業推進室】

郡山市田村町の有限会社仁井田本家の水稲有機栽培において、中通り地方で初となる「アイガモロボ」の実証試験を行っています。アイガモロボは田植え後の水田を自動で航行し、スクリューで土を巻き上げながら移動することで水を濁らせ、雑草の光合成を抑制し、抑草する仕組です。

また、粒子の細かい泥の層（トロトロ層）を形成して雑草種子を埋没することで、出芽抑制効果も期待されます。実証では、従来機と新型機を用いて、雑草の抑制効果やバッテリー充放電性能及び稼働率等を比較します。６月４日に行われた実演会では、開発に携わった協力機関をはじめ、市内の水稲有機農業者も参加し、アイガモロボの動きや抑草効果等を確認しました。

自動航行するアイガモロボ（奥：従来機、手前：新型機）

『喜多方市が会津地方で初となるオーガニックビレッジ宣言を行いました！』

【会津農林事務所農業振興普及部】

喜多方市が会津地方で初となるオーガニックビレッジ宣言を５月 15 日に行いました。オーガニックビレッジ宣言とは、有機農業の拡大に向けて生産から消費まで一貫して地域ぐるみで取組を行う市町村です。喜多方市は、持続可能な農業とカーボンニュートラルの実現に向けて、今後も有機農業の担い手育成、有機農産物の販路拡大、流通事業者や消費者に対する理解促進を通して、有機農業の拡大を目指すことを宣言しました。有機栽培のパンフレットの作成や学校給食での有機米の活用など、今後様々な取組を行う予定です。

喜多方市オーガニックビレッジ宣言式の様子

『有機農業者組織「自然農法会津雲の会」の勉強会が開催されました！』

【会津農林事務所農業振興普及部】

　喜多方市の「自然農法会津雲の会」は、平成 30 年９月に設立された有機農業者組織です。令和元年に小島潤さん、相田恭平さんの２名で有機ＪＡＳ認証を取得し、現在はミニトマトを中心にニンジンやコマツナ等を栽培しています。また、令和５年度はきゅうり栽培で新規就農した吉井藤志彦さんが加入し、現在３名で活動しています。今年度から新たな取組として、２か月ごとにメンバーのほ場を巡回して土壌ｐＨを測定し、測定結果に基づいた石灰施用やかん水について意見交換を実施する計画を立てており、第１回目が５月に開催されました。今後も新メンバーを募り、会員同士相互に技術力を高め合い有機農業による産地づくりを目指しています。

ミニトマトの生育状況を確認する自然農法会津雲の会メンバー

『南会津地方有機農業推進セミナーを開催しました！』

【会津農林事務所農業振興普及部】

　６月４日に水稲の有機農業に取り組む沢田稲作研究会（下郷町）の渡部貴人さんのほ場で、乗用型水田除草機の実演を兼ねた有機農業推進セミナーを開催しました。乗用型水田除草機は今年度、研究会で導入したものです。渡部さんからは「除草にかかる時間と体への負担が大幅に軽減された」とのコメントがあり、導入した機械に手ごたえを感じたようでした。機械メーカーからは、「作業時は水深５cm 程度を確保し、雑草が多い箇所では除草エンジンの回転数を上げる一方で、走行エンジンの回転数は下げることが効果的な除草のポイント」との説明があり、参加者は実演をみながら熱心に耳を傾けていました。

乗用型水田除草機を実演する沢田稲作研究会の渡部貴人さん

『農事組合法人「あいアグリ太田」の水稲有機栽培ほ場にて
南相馬市立太田小学校の児童が田植えを行いました！』

【相双農林事務所双葉農業普及所】

６月４日に食農教育の一環として、南相馬市立太田小学校２年生から５年生までの児童39名と引率の先生７名が、農事組合法人「あいアグリ太田」（南相馬市）の「水稲有機栽培ほ場」で田植えを行いました。５年生は慣れた手つきで稲がまっすぐ一列になるよう下級生に植え方を教えていました。約１時間休まずに12aの手植え作業を終えた児童からは、「いつも食べているお米が大変な作業で作られていることを知りました」、「はじめての田植えがんばりました」といった声が挙がりました。秋には収穫作業を行います。

「水稲有機栽培ほ場」での田植え作業

お知らせ

『第 17 回農業総合センターまつりの開催について』

【農業総合センター】

〇本部会場　【　９月６日（金）　９：30～15：00　】

　　　　　　【　９月７日（土）　９：30～15：00　】

〇果樹研究所　【　９月 12 日（木）　10：00～15：00　】

皆さんお待ちかね！！

農業総合センターまつり（本部会場）を、９月６日（金）、７日（土）に開催いたします。

農産物販売やキッチンカーの設置をはじめ、センターツアー、農業技術相談、農業技術セミナー等の農業総合センターならではの企画が満載です。また、有機農業推進室ではお子様連れのご家族を対象に「ぼかし肥料の作成体験」を実施しますので、ぜひお越しください。

果樹研究所参観デーは９月 12 日（木）に開催し、技術セミナー、生産物販売、ほ場案内等を企画しています。

詳しい内容は、農業総合センターホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

（農業総合センターHP）https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a/maturi.html

＜事業紹介＞

『有機農業関連の補助事業について』

【農林水産部環境保全農業課】

1　環境にやさしい農業拡大推進事業

〇有機ＪＡＳ認証等拡大支援事業：有機ＪＡＳ、特別栽培認証に係る経費等の支援
〇事業主体：農業者等（小分け認証は県内事業者）
〇補助率：新規認証（有機、特栽）3/4 以内、継続認証（有機のみ）1/2 以内、小分け認証（新規）定額（上限 300 千円）＋施設整備 1/2 以内（上限 2,000 千円）

2　みんなでチャレンジ！環境保全型農業拡大事業

〇環境保全型農業チャレンジ！事業：有機栽培、特別栽培の拡大、新規取組に必要な経費の支援
〇事業主体：ＪＡ部会、生産者組織等
〇補助率：有機栽培は１団体あたり、[参加人数] × [単価 100 千円/人]、特別栽培は１団体当たり、[取組面積] × [単価 5 千円/10a]（上限 1,000 千円/団体）

3　みどりの食料システム戦略推進交付金事業

（１）有機農業産地づくり推進
〇内容：有機農業のモデル的な先進地区（オーガニックビレッジ）を創出するための支援
〇事業主体：市町村等
〇補助率：定額（上限 10,000 千円、うち機械リースに係る経費は 1/2 以内）

（２）有機転換推進事業
〇内容：有機農業の生産を開始する経費の支援
〇事業主体：市町村等
〇補助率：定額（20 千円/10a）

4　ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業（ふくしま有機農業就農研修支援事業）

〇内容：有機農業の就農受け入れ、技術研修、就農促進の活動の経費を支援
〇事業主体：有機農業生産者組織、市町村等
〇補助率：定額（上限 1,000 千円）

【問い合わせ先】

県北農林事務所：024 - 521 - 2604　　県中農林事務所：024 - 935 - 1307
県南農林事務所：0248 - 23 - 1555　　会津農林事務所：0242 - 29 - 5302
南会津農林事務所：0241 - 62 - 5253　　相双農林事務所：0244 - 26 - 1147
いわき農林事務所：0246 - 24 - 6160
農業総合センター有機農業推進室：024 - 958 - 1711
農林水産部環境保全農業課：024 - 521 - 7453

↑環境にやさしい農業拡大推進事業　　↑みんなでチャレンジ！環境保全型農業拡大事業　　↑ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業